

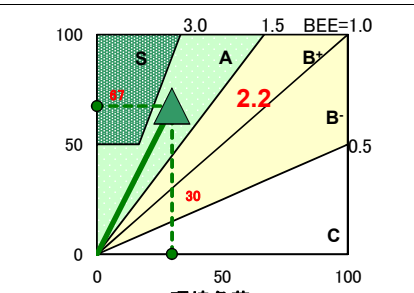


1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	個人住宅	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2020年1月	竣工	持ち込み家電等	仮	
建設地	横浜市中区北方町2丁目	確定	外構の仕様	確定	
用途地域	一種住居地域		<備考>		
省エネルギー地域区分	6地域	評価の実施日	2019年7月16日		
構造・構法	S造	作成者	西日本住宅設計室二課 大近直子		
階数	2	確認日	2019年7月21日		
敷地面積	340 m <sup>2</sup>	確認者	関口 拓矢		
建築面積	117 m <sup>2</sup>				
延床面積	224 m <sup>2</sup>				
世帯人数	5				

### 2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 2.2** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★



環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

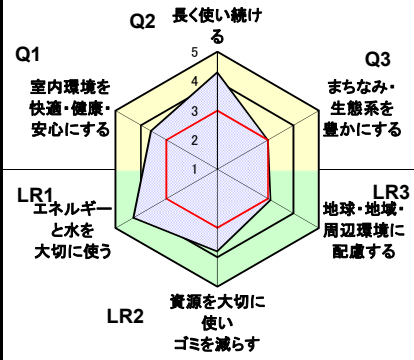
☆☆☆☆☆ ~0% ☆☆☆☆☆ ~50% ☆☆☆☆☆ ~75% ☆☆☆☆☆ ~100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

戸建標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	62%
③上記+②以外の	62%
④上記+	62%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q2 長く使い続ける

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア = 3.6

暑さ・寒さ	3.6
健康と安全・安心	4.2
明るさ	3.0
静かさ	3.0

##### Q2 長く使い続ける

Q2のスコア = 4.3

長寿命に対する基本性能	4.3
維持管理	5.0
機能性	3.5

##### Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

Q3のスコア = 3.0

まちなみ・景観への配慮	5.0
生物環境の保全と創出	1.0
地域の安全・安心	3.0
地域の資源の活用と住文化の継承	3.0

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア = 4.3

総合的な省エネ	4.6
水の節約	3.7
維持管理と運用の工夫	3.0

##### LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア = 3.8

省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用	3.4
生産・施工段階における廃棄物削減	5.0
リサイクルの促進	3.0

##### LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮	4.5
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	2.0

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <p>長期にわたって世代から世代へと住み継がれていく、資産価値の変わらない超寿命住宅。家族構成や住まい方の『緩やかで大きな変化』に対して、生活の質を維持したまま対応していける住宅の耐久性、高齢者居住や3世代同居への配慮など柔軟なプランニングを有した「いつまでも愛着を持って住み継いでいける、可変性のある住宅」である。</p>	<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>次世代省エネ基準を超える断熱性能、通風への配慮、適切なエアコンの設置、化学汚染物質対策、防犯への配慮設計によって、快適・健康・安心な室内環境を実現している。</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>構造躯体に高い耐久性・耐震性を持たせ、給排水設備設備の点検・清掃性に配慮し、企業としての保守点検体制を充実させることで長期間の維持管理に対応している。また、余裕のある広さと間取りを確保することで機能面においても、次の世代まで住み続けられる家を目指した。</p>
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>建物については高断熱化で、設備については高効率機器の採用により省エネルギーを実現した。また、節水型便器を採用するとともに、入居者向けマニュアルに省エネに関する記述を行い、住まい手による適切な維持管理を啓蒙している。</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>再生可能材料やリサイクル材を屋根下地材や床下地材に採用することで、省資源・廃棄物抑制に配慮した。また、部材生産、施工の各段階での廃棄物削減を推進した。</p>
	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>xevoのコンセプトである街並に対する「身だしなみ」を考慮し、建物配置等で既存の街並の形成に配慮した。また、死角をつくらない外構設計によって防犯にも配慮している。</p>
	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p>



### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

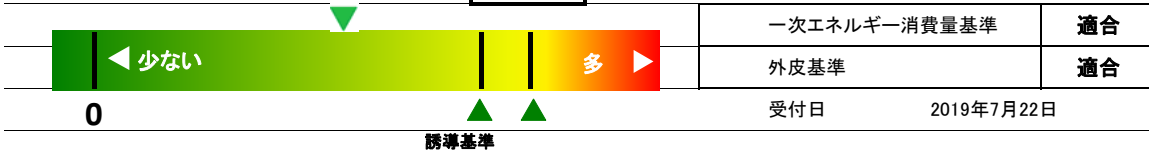
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 **個人住宅**

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **43** %削減



■エネルギーを大切に使う (①建物の工夫 ②設備の性能 ③維持管理と運用)

①建物については高断熱化で、設備については高効率機器の採用により、省エネルギーを実現している。

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **5**

■室内環境対策 (④暑さ・寒さ)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当)

■室内環境を快適・健康・安心にする (⑤健康と安全・安心)

⑤日本住宅性能表示基準において ホルムアルデヒド発散等級3を満たす。

■その他の対策 (⑥自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 **4**

■災害に備える (⑦災害に備える ⑧長寿命に対する基本性能 ⑨地域の安全・安心)

⑧日本住宅表示基準において劣化対策等級3を満たす

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **3**

■まちなみ・生態系を豊かにする (⑩まちなみ・景観への配慮 ⑪生物環境の創出)

⑩街並にたいして「身だしなみ」を考慮したデザイン

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
太陽光利用	燃料電池 ・ コージェネレーション ・
エネルギーマネジメントシステム導入	蓄電池 ・
HEMS	—

# CASBEE 横浜 [戸建] | 評価結果 | 31-062



CASBEE横浜[戸建] (2017年版)  
個人住宅

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.0

スコアシート				
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	全体
<b>QH</b> すまいの環境品質		-	-	<b>3.6</b>
<b>QH1</b> 室内環境を快適・健康・安心にする		-	0.45	<b>3.6</b>
<b>1 暑さ・寒さ</b>		<b>3.6</b>	0.50	<b>3.6</b>
<b>1.1 基本性能</b>		<b>4.2</b>	0.50	-
1 断熱等性能の確保	健康・安心	5.0	0.80	-
2 日射の調整機能	健康・安心	1.0	0.20	-
<b>1.2 夏の暑さを防ぐ</b>		<b>3.0</b>	0.25	-
1 風を取り込み、熱気を逃がす		3.0	0.50	-
2 適切な冷房計画		3.0	0.50	-
<b>1.3 冬の寒さを防ぐ</b>		<b>3.0</b>	0.25	-
1 適切な暖房計画		3.0	1.00	-
<b>2 健康と安全・安心</b>		<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>
2.1 化学汚染物質の対策	健康・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画	健康・安心	5.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える	健康・安心	4.0	0.25	-
2.4 災害に備える	防災	3.0	0.25	-
<b>3 明るさ</b>		<b>3.0</b>	0.10	<b>3.0</b>
3.1 屋光の利用		3.0	1.00	-
<b>4 静かさ</b>		<b>3.0</b>	0.10	<b>3.0</b>
<b>QH2</b> 長く使い続ける		-	0.30	<b>4.3</b>
<b>1 長寿命に対する基本性能</b>		<b>4.3</b>	0.50	<b>4.3</b>
1.1 躯体	防災	5.0	0.30	-
1.2 外壁材		4.0	0.10	-
1.3 屋根材、陸屋根		3.0	0.10	-
1.4 自然災害に耐える	防災	5.0	0.30	-
1.5 火災に備える		3.3	0.20	-
1 火災に耐える構造		3.0	0.65	-
2 火災の早期感知		4.0	0.35	-
<b>2 維持管理</b>		<b>5.0</b>	0.25	<b>5.0</b>
2.1 維持管理のしやすさ		5.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制		5.0	0.35	-
<b>3 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.25	<b>3.5</b>
3.1 広さと間取り		5.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応		2.0	0.50	-
<b>QH3</b> まちなみ・生態系を豊かにする		-	0.25	<b>3.0</b>
<b>1 まちなみ・景観への配慮</b>	地域・まちづくり	5.0	0.30	<b>5.0</b>
<b>2 生物環境の創出</b>		<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>
2.1 敷地内の緑化	地域・まちづくり	1.0	0.65	-
2.2 生物の生息環境の確保	地域・まちづくり	1.0	0.35	-
<b>3 地域の安全・安心</b>	防災	3.0	0.20	<b>3.0</b>
<b>4 地域の資源の活用と住文化の継承</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>
<b>LRH</b> すまいの環境負荷低減性		-	-	<b>3.8</b>
<b>LRH1</b> エネルギーと水を大切に使う		-	0.35	<b>4.3</b>
<b>1 総合的な省エネ</b>		<b>4.6</b>	0.75	<b>4.6</b>
1.1 躯体と設備による省エネ	省エネルギー性能	5.0	0.90	-
1.2 家電・厨房機器による省エネ	省エネルギー性能	1.0	0.10	-
<b>2 水の節約</b>		<b>3.7</b>	0.15	<b>3.7</b>
2.1 節水型設備		4.0	0.75	-
2.2 雨水の利用		3.0	0.25	-
<b>3 維持管理と運用の工夫</b>		<b>3.0</b>	0.10	<b>3.0</b>
3.1 住まい方の提示	省エネルギー性能	3.0	0.50	-
3.2 エネルギーの管理と制御	省エネルギー性能	3.0	0.50	-
<b>LRH2</b> 資源を大切に使いゴミを減らす		-	0.35	<b>3.8</b>
<b>1 省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用</b>		<b>3.4</b>	0.60	<b>3.4</b>
1.1 構造躯体		<b>3.0</b>	0.30	-
1 木質系住宅		3.0	-	-
2 鉄骨系住宅		3.0	1.00	-
3 コンクリート系住宅		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎		3.0	0.20	-
1.3 外装材		4.0	0.20	-
1.4 内装材		4.0	0.20	-
1.5 外構材		3.0	0.10	-
<b>2 生産・施工段階における廃棄物削減</b>		<b>5.0</b>	0.30	<b>5.0</b>
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		5.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		5.0	0.33	-
2.3 施工段階		5.0	0.33	-
<b>3 リサイクルの促進</b>		<b>3.0</b>	0.10	<b>3.0</b>
3.1 使用材料の情報提供		3.0	1.00	-
<b>LRH3</b> 地球・地域・周辺環境に配慮する		-	0.30	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		<b>4.5</b>	0.33	<b>4.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>
2.1 地域インフラの負荷抑制		3.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全		3.0	0.50	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>2.0</b>	0.33	<b>2.0</b>
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		1.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善		3.0	0.50	-